エレガンス

2025.09.04

日東紅茶100周年。「気軽さ」と「特別感」が並んだ、代官山・19日間のPOPUP

宮嶋 優太郎 / 株式会社スマイルズ

05

ビラン：グランパパ
宮嶋 優太郎(株式会社スマイルズ)／ 執筆
syunsuke arata(株式会社HIGE)／ 撮影
日東紅茶100周年プロジェクトメンバー

Share　Download

伝えたかった、二つのブランドの違いと魅力

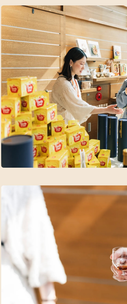
100周年という節目に企画した今回のPOPUPのテーマは、日東紅茶が大切にしてきた「気軽さ」と、nittoh.1909が提案する「特別感」。一つの空間で届けることと、
日東紅茶は、毎日のあるじかや で気軽に楽しめる紅茶として、多くの方に長く愛されてきたブランド。一方のnittoh.1909は、紅茶を通じてその質そも提案する、自分のこだわりに寄り添う特別な時間を届けるブランドです。

気軽に楽しむ一杯もあれば、じっくり味わう一杯もある。その両方を同じ空間に並べることで、「日東紅茶には、こんな一面もあるんだ」という新しい発見や、新たな出会いにつながるきっかけをつくりたい。そんな思いから、このPOPUPを企画しました。

会場となった代官山 蔦屋書店は、食や暮らしへの関心が高い人々が集う場所。商品も販売するだけではなく、会話や体験を通じて、ブランドとの有な接点を生み出すことも、この企画の大切な目的でした。

売り場そのものが、ブランドとの出会いになる

スーパーでおなじみのロングセラー日東紅茶の「デイリークラブ」は、いつもとは違う見せ方で展開。それもnittoh.1909と同じ空間に並べることで、気軽とお別感、その両方を感じられる売り場をつくりました。



棚のあちこちには、小さなピクニックを表現したミニチュアを忍ばせるなど、遊びこころのある仕掛けを実施。思わず写真を撮ったり、商品を手に取ったりしたくなる空間演出を目指しました。

また、香り見本や試飲も用意し、「見る」だけでなく「香り」や「味わい」まで体験できる売り場に。19日間の会期中に提供した試飲は、およそ500杯。20代や50代まで幅広い世代が足を運び、試飲や会話をきっかけに、商品への興味を深めていく様子が多く見られました。

「こんな商品もあるんですね」――会話から生まれた新しい発見

イベントの現場だったのは、お客様との会話を通して、ブランドの新たな魅力に気づいていただけたことでした。

日東紅茶は多くの方に親しまれているブランドだからこそ、「日東紅茶は知っていますけど」という声が多く聞かれる一方で、「nittoh.1909は初めて知りました」「こんな商品もあるんですね」と、新しい発見に驚く様子も数多く見られました。

香り見本をきっかけに「香りがすごく良いですね」と足を止める方や、試飲を通して茶葉や味わいについてスタッフへ質問する方も多く、お客様をきっかけに、自然と会話が広がっていきました。

とりわけ印象に残ったのは、東京ティロ2日間限定で日東紅茶のミルクティーキッチンカー「DALMATIANS」の出店もしていたことをあり、「キッチンカーで飲んだミルクティーがおいしかったので、茶葉も見に来ました」という方や、「子どもの頃、実で飲んでいた日東紅茶を思い出しました」と懐かしそうに話してくださる方の声。新しい出会いも、昔からの思い出も、一杯の紅茶をきっかけに、お客様それぞれの紅茶とのつながりを感じられる時間になりました。

商品を紹介するだけではなく、お客様一人ひとりの紅茶との関わりに耳を傾けながら、新しい楽しみ方やブランドの魅力を共有できたことは、このPOPUPならではの大きな収穫となりました。

気軽さも、特別感も。これからの100年へ

今回のPOPUPを通じて、多くのお客様に日東紅茶の新たな一面を知っていただく機会となりました。

気軽さも、特別感も、これからも日東紅茶は、一杯のお茶をきっかけに、新しい出会いやつながりが生まれる時間を届けていくことが、次の100年につながっていくと考えています。

一覧に戻る

関連する記事
約20年前の「いんご紅茶」も、現代にアップデート
日東紅茶100周年。「気軽さ」と「特別感」が並んだ、代官山・19日間のPOPUP
関連するTea Friends
川口 悟 / 代官山 蔦屋書店
栗島 由美 / 代官山 蔦屋書店

Copyright(c) Nittoh Tea Co.,Ltd. All Rights Reserved.